

オプトアウト(協力施設用)
薬剤性過敏症症候群の重症例の調査

・研究の目的

薬剤性過敏症症候群(DIHS)は高熱と臓器障害を伴う重症薬疹の一つです。ヒトヘルペスウイルス科のウイルスの再活性化を生じ、症状の再燃や重症化と関連することが知られています。また DIHS の症状が軽快したのちに甲状腺炎などの自己免疫疾患を生じることも知られており、ヘルペスウイルスが関わっている可能性が指摘されています。そこで本研究では、DIHS 後に慢性の合併症を生じたあるいは重症化した患者さんについて、合併症とヘルペスウイルスとの関係を明らかにし、DIHS の治療や予後の予測に役立てることを目的としています。

・この研究は奈良県立医科大学皮膚科を中心として行うもので、難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「重症多形滲出性紅斑に関する調査研究」に参加する全国の施設が参加予定です。本研究は、本学の医の倫理審査委員会の承認および学長の許可を受け、実施承認後から行われます。この研究は厚生労働科学研究費補助金「難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業): 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究」の研究費により実施され、利益相反には該当しません。

・対象となる方

2008年1月から2026年3月までに、奈良県立医科大学および協力施設でDIHSおよびDIHS類似の病態と診断された患者さん

・研究の方法

カルテに記載されている、年齢、性別、基礎疾患、原因薬剤、血液検査結果、臨床経過、合併症、治療内容を抽出します。調査項目には氏名、生年月日、カルテ番号など個人を特定できる情報は含まれず、各医療機関が割り振った研究用の症例番号で識別します。また、診療時に採取した血液の残りをを用いてDIHSに関連するヘルペスウイルス関連分子の量を測定します。ウイルスの測定用の残余血液と患者情報を奈良県立医科大学皮膚科に提供します。これらの情報は奈良県立医科大学皮膚科で収集され、統計解析を行い、DIHS後の慢性炎症性疾患や重症化とヘルペスウイルスとの関係を明らかにし、DIHSの予後予測や治療指針の作成に役立てます。研究結果は学会発表や論文公表を行う予定ですが、患者さんを特定できる情報は含みません。

・研究機関の名称および研究責任者の氏名

研究機関 奈良県総合診療センター 血液・腫瘍内科
研究責任者 八木 秀男

・情報提供先の名称および責任者の氏名

研究統括者 奈良県立医科大学皮膚科 浅田秀夫

・研究計画書および研究の方法に関する資料を入手または閲覧できます。その場合、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。その場合は奈良県立医科大学 皮膚科学教室へお問い合わせください。

連絡先： 奈良県総合医療センター 血液・腫瘍内科 0742-46-6001 八木 秀男

奈良県立医科大学 皮膚科学教室 0744-22-3051